

令和元年度(2019年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	B 重点目標に対する各部署の評価から、概ね達成できたと考えられる。昨年度と比較して内容が充実できた項目があったが、課題も残った。次年度に向けて課題を確認・共有し、課題解消に向けて取り組んでいく。	昨年度、課題としてあげた「授業力アップと充実」については、今年度は、授業公開週間ばかりでなく、常時多くの職員が授業を見合い、内容を議論し合うなどして、その向上に務めてきた。年度途中で導入された電子黒板を用いた授業も試行錯誤を繰り返しながらも、授業に取り入れる職員が増えてきている。それに対する生徒の反応も上々であり、今後も継続して研究していく。一方で「学習時間の増加」に関しては依然として課題は残った。目標達成のための具体的な方策をたて、取り組んでいく。生徒の主体的・意欲的な学び・姿勢の育成に向けては、今後、例えば校外での活動時間の確保や充実、生徒の受動的な姿勢を改めさせるうえで必要なことは何かを考え、取り組んでいく。
令和元年度(2019年度) 重点目標 (平成30年度～令和4年度 中期目標)		
(1) 「大学入学共通テスト」に対応する丁寧な教科指導と進路体制の充実により、それぞれの生徒の進路実現を保証する。 (2) 学習活動・課外活動・部活動など多くの場面で、課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢を育成する。 (3) 広く地域や国際社会に目を向けさせ、校外でも積極的に活動することで、社会性やコミュニケーション能力を高めさせるとともに、地域の期待に応える「地域の中の学校」づくりを進める。 (4) 必要な学習環境の整備を行い、積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な(体罰やいじめなどのない)学校づくりを進める。 (5) 「言語活動」を充実させ、的確な言葉を用いて、論理的かつ自由に思考し表現しながら、異なる他者や多様な立場を理解できる多角的な視野と品格を育む。		

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務	(1)	①授業や諸行事、会議等が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。	①	A	①・2学年の進路研修旅行は、悪天候の影響で残念ながら中止となったが、ほかは順調に進めることができた。第1回地域公開授業(6/10)参加者247名、体験入学(8/6)同704名、第2回地域公開授業(9/30)同101名。秋以降は中学校訪問を行い、中学校側との情報交換ができた。連絡メールの配信はこまめに行えた。また先の台風19号接近に伴う安否確認にも利用した。②・校内研修に関しては職員研修会を7/17,9/4,9/26,11/27に実施。限られた時間の中ではあったが充実した研修機会となった。・会議の効率化については、今年度より原則2週間に1回の職員会開催としたが、1回あたりの会議時間は長く、さらなる効率化の必要性を感じている。③・55分授業および特曜日の運用は2年目となり安定的に運用できるようになってきたと考えている。④・防災計画のとおりに初動対応訓練(4月)のほか、避難訓練(10月)を実施。悪天候時の日課変更に対してのメール配信を行った。	①に関して 地域公開授業については、保護者の参加が非常に少ない。保護者の皆様にも授業参観していただけるよう、広報活動を積極的に行っていく。②に関して 教員同士が自発的に互いの授業を見合う場面が例年に比べて増えた。今年度下半期より全普通教室にプロジェクターならびにスクリーンが設置された。今後も教員間で連携し合い、効果的な使用法などを研究していく。会議の効率化についても引き続き研究課題と認識している。③に関して 総合的な探究の時間を実施する学年が2学年まで拡大する。外部で授業を行うことも想定した、柔軟な時間割運用等の研究を引き続き行っていく。④に関して 今年度は台風19号接近に伴う対応や敷地内へのインシジョン侵入など想定外のできごとがあった。今後も予期しないできごとに対して冷静な対応ができるよう、緊張感をもって物事に取り組んでいく。
	(2)	②各分掌や学年と密に連絡を取り合う。	・校内研修の充実を図れたか。 ・会議の効率化が図れたか。	②	B		
	(3)	③今年度以降の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・55分授業や特曜日の課題を把握し、次年度の年間行事予定に反映できたか。	③	B		
	(4)	④安心して通える学校作りに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。	④	A		

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
進路指導	(1) (2)	① 生徒が各自の能力・適性を的確に把握し、主体的に自らの在り方生き方を考えて進路を選択できるように、あらゆる教育活動をととして、計画的・組織的な指導を展開する。	・個人面談、学年集会、「進路の日」、「総合的な探究(学習)の時間」等の企画運営を通じて、生徒の進路意識を高め、進路ガイダンス機能の充実を図ることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	① B	・3学年においては国立大学を第1志望とする生徒にクラス担任を中心に面談を行い、推薦・AO入試受験に向けた組織的な指導に早期に着手し、多くの生徒が推薦入試に挑んだ。その結果、11名の生徒が合格を果たし、一定の成果を挙げたといえる。その一方で、現状の指導体制の限界や課題も見えてきた。 ・諸事業はほぼ計画通りに実施することができ、スタディサポート(8月)の結果によると、平日学習時間は1学年が35分、2学年が38分であった。4月当初に比べると、学習時間が一部若干増えたところはあるが、目標とした1時間30分には遠く及ばない。 ・webドリルをはじめ、Classiの学習機能の活用には工夫の余地がある。	・本校生徒の現状から考えると、推薦入試・AO入試への対応は、希望進路実現のための柱の1つであることに変わりはないだろう。当面、生徒自身が早期に志望校と志望理由を固めることが土台となる。現2年生については、推薦・AO入試で受験を考えている生徒に年度内に志望理由書を書かせてみる計画である。
	(1) (2)	②「予習→授業→復習」の学習習慣の定着を図る。Classiの研究と活用を推進し、家庭での学習習慣の定着に努める。	学習動画・webドリル等を定期的に配信できたか。また、学習時間調査を実施し、平日家庭学習時間1時間30分以上を達成できたか。	② C	・今年度から「学びの基礎診断」としてスタディサポートを実施することになり、受験結果について各教科に分析を依頼して学年通信等で生徒にフィードバックを行った。4月についてはややスピード感に欠けてしまったが、8月については迅速に情報を発信することができた。 ・英語外部試験および大学入学共通テストでの国語と数学への記述式問題の導入については、周知の通り結果的には取りやめとなった。その過程において、学校現場としては様々な混乱を経験することになった。	・各教科指導における基礎・基本を定着させるための効果的な「課題」のあり方とともに、生徒の自主的な学習への動機付けをいかに行うかについて、今後も継続的に検討していかなければならない。
	(1)	③ 生徒の進路選択に関わる情報や模擬試験データを職員間で共有し、教科会等に対して指導に関する助言・協力を求める。同時に「高大接続改革」に関する情報収集に努め、職員間で情報共有を図る。	・定点観測模試結果の傾向を分析し、職員会へ報告したか。また、教科会にデータ分析を依頼し、生徒へのフィードバックを図ることができたか。 ・各種研究会への参加や大学訪問等を通じて、高大接続改革に関する情報収集を行い教員間で共有できたか。	③ B	・「学びの基礎診断」については、来年度以降も各教科会と連携を図り、時機を捉えた迅速なフィードバックを心がけ、基礎学力の向上に資するものとした。 ・いわゆる「高大接続改革」は、かねてから懸念されていた構造的欠陥が解消されず、3本柱のうち、英語外部試験および大学入学共通テストでの国語と数学への記述式問題の導入という2本の柱が当面は消滅することとなった。ただし、来年度についていうと、大学入試センター試験から大学入学共通テストへの移行は、決定済みとされているため、今後も情報収集に努め、対策を講じていく必要がある。	・「学びの基礎診断」については、来年度以降も各教科会と連携を図り、時機を捉えた迅速なフィードバックを心がけ、基礎学力の向上に資するものとした。
	(4)	④ 進路指導に活用できる情報・資料を収集し、生徒・保護者及び職員に発信する。	各学年の進路通信(学年通信)を発行できたか。	④ A	・各学年ごと時機を捉えて情報発信に努めることができた。	・引き続き情報発信に努めるとともに、1・2学年においてClassi経由で発信する情報を生徒・保護者がさらに有効に活用できるよう工夫したい。
生活指導	(3) (4)	① 生徒に基本的な生活習慣を確立させる。 ② 生徒とのコミュニケーションや家庭との連携を大切にして信頼関係を築く。 ③ 些細な情報でも職員同士が共有し、初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校作りを進める。	① 社会や学校のルールを遵守させることができたか。 ② HR指導、頭髪指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施し、また、匿名性のアンケートを用いて的確に対応できたか。 ③ 各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。	① B ② B ③ B	前期と比較して、自転車の事故の件数は約5分の1に減り、現金盗難は11月上旬から発生していない。職員の見廻りなどが徹底され、生徒の危機意識が多少向上したと思われる。しかし、自転車の乗り方について外部からの指摘があるので、全生徒に徹底できたわけではない。 巡視指導を除いては、それぞれの指導を年間を通して計画通りに実施することができた。アンケートも保護者懇談会や生徒面談で有効に使用できた。 状況把握のスピードも大切だが、後期から正確さをより重視して対応することができた。	例年、学年別では1年生の事故件数が多く、本年度は特に多かったのを、これを減らすことが全体の事故件数の減少に繋がる。したがって、新年度は4月から生活指導部と1学年が協力して自転車運転についてのルールや注意点を徹底して教え込む必要がある。 定期的な指導の他に、臨時的立ち番や巡視指導が大切であるので、今後も続けていきたい。
	(2)	① 他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	① 主体的、実践的に取り組ませることができたか。	① A	双蝶祭などの行事や日頃の生徒会の関わる活動において、生徒中心の主体的・実践的な取り組みを深めることができた。	引き続き、前年踏襲ではない新しい取組みや、さらに良いものを追求する。
	(3) (4) (5)	② 集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携をはかる。 ③ 健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。 ④ 相互に尊重し、友情を深めるとともに、規律を遵守し、共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	② 保護者・地域との積極的な連携がはかれたか。 ③ 健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。 ④ 多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	② B ③ A ④ B	双蝶祭や福祉施設訪問等のボランティア活動において、保護者・地域と連携を図ったが、更に関わりを深められるよう、今後も方法を模索したい。 双蝶祭などの行事や部活動において活発な活動を推進することができた。 今年度の成果をふまえ、地域や未知なる分野への興味・関心を持つようなきっかけづくりを継続して行うことで、より広い視野を持ち、他者を尊重する姿勢を今以上に養えるよう工夫を図りたい。	社会福祉協議会と連携を図るなど、広く社会へと目を向け、自らが主体的に興味関心を持って関わることのできる活動の可能性を模索していく。 活発な活動のためのヒントとなるようなアイデアを提供するとともに、生徒との協働を図る。 生徒の変化に応じ、自主性を引き出すための試みを続けていく必要がある。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
情報処理	(4)	①使いやすさとセキュリティの高さという相反する目的を達成するため常時ネットワークの運用管理に心を配る。	・使いやすさの為に日々更新される新しい知識を理解習得し応用する。 ・年1回を目標に職員向けの校内セキュリティ講習を実施し、セキュリティ意識・技術の向上をはかる。	①	B	かなりの数の先生方が教室でホワイトボードを利用していた授業を実践できた。新たに導入されたタブレット型PCも総合の授業など様々な場面で活用出来るようになってきた。今後はさらなる活用できる環境精美、情報提供を行ってゆきたい。ただし、現在の校内Webのシステムは限界にきており、新たなブラウザに対応出来ていないなどの問題がある。	長野県で次期更新時より、ネットワーク上で稼働する予定のグループウェアが導入の予定もあります。校内Webを新しいブラウザに対応したモノに改訂するか、または廃止してネットワークドライブ上のフォルダごとの管理の方が使いかたがよいかもしれませんが、今後係で検討してみます。
清美	(2) (4)	①清美委員会と協力し、ゴミの分別・可燃ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。 ②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう適切な清掃活動を計画する。	・資源ゴミの分別徹底により、可燃ゴミの削減ができたか。 ・ゴミ回収、大掃除、ワックスがけなどの清掃計画は適切であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われていたか。	① ②	B B	清美委員会が主体となって年間を通じてゴミの分別徹底の喚起を行うことができ、昨年度よりゴミの減量ができた。教室・特別教室・研究室から出るゴミについてだけでなく、部室から出るゴミの分別徹底に次年度以降取り組んでいきたい。 清掃計画は年間を通じて計画通り遂行できた。校舎外清掃・清掃点検も定期的に行うことができたが、さらに全校の清掃に対する意識を高める取り組みを次年度は行っていきたい。	部室におけるゴミの分別指導を清美委員会と協力して取り組んでいきたい。そのことにより全校生徒の清掃に対する意識を喚起していきたい。 ゴミ回収の日程、ワックスがけの時期については次年度以降も教務部と相談の上計画したい。全校に清掃に対する意識喚起のため、清掃点検の方法の見直し、部室のゴミの分別徹底について対策をとっていきたい。
図書視聴覚	(2) (4)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える ②ICT機器導入を踏まえ、授業におけるICT機器活用方法について研究を進める。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器等を備えることができたか。 ・授業におけるICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	① ②	B B	生徒の主体的・意欲的な学びを促すような蔵書を導入し、総合等で活用された。電子黒板や書画カメラの運用方針について決定し運用を開始した。 職員向け研修や研究授業を実施した。しかし生徒から電子黒板を使う頻度の少なさが指摘されている。	さらに生徒が図書館を進んで利用できるよう方法を検討する。電子黒板や書画カメラ等のより使いやすい運用方法を検討していく。 どのような場面で電子黒板や書画カメラを利用すると効果的なのかについて今後研究し情報を共有する。
保健教育相談	(2) (4)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。 ②成長過程での様々な問題を抱えている生徒を、早期に把握し、体や心の悩みに寄り添い、家庭や外部機関とも連携していく。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握し、情報を共有し、チーム支援の体制をとることができたか。 ・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	① ②	B B	生徒の状況を把握し、全職員で共有することができた。チーム支援の体制が取れるように、担任、学年その他の部署と連絡を取りあひながら進めることができた。 ただ、「心の問題」は難しく、なかなか思うようにならないことが多かった。 保健室・相談室を訪れる生徒の悩みには、真摯に耳を傾け、対応することができた。保健室登校の生徒が複数いたため、今後このようなケースにどう対応すればよいか、検討が必要である。発達障害のケースについて外部機関とも相談することができ、今後も継続していきたい。	今後、ケース会議をもっと設定し、チーム支援の体制を強化していく。 教室に入れない生徒の居場所として、無人の部屋にいさせることは避けるべきであるため、保健室や相談室で対応しきれない場合には、図書館のような職員の目が届くような場所も、居場所としてお願いしたい。
渉外	(3) (4)	①地区PTAに関すること。 ・地区の合併を進める。 ・参加者を増やす工夫、働きかけをする。 ・保護者の意見を吸い上げ、職員へ伝達する。 ②学校と保護者・同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・地区PTAにおいて、合併への検討を進めることができたか。参加率は向上したか。保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることができたか。 ・PTA活動の企画・運営は適切であったか。	① ②	B B	今年度の地区PTAは全て実施された。合併については、係原案を作成した。職員会一理事・評議員会一総会にて承認されれば、来年度から合併できる。意見の提示はしたので、各部署で活かしてもらう。 PTA活動は計画通り実施している。参加率向上の工夫が必要である。	地区PTAは参加率の向上が課題である。地区の合併は、引き続きの検討が必要な地区がある。 細かい部分の改善は必要である。今年度の反省等を踏まえて、次年度に引き継ぐことが大切である。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
総合	(1) (2) (3) (5)	①各教科・科目、特別活動等で学習した知識や技能を総合的に活用し深化させる。 ②学校生活や地域社会の中から、自ら課題を見つけ解決する能力を育成する。 ③主体的かつ探究的に学ぼうとする意欲や態度を育成する。	・様々な学習活動を通して生徒が社会とのつながりや生き方について考える機会になったか。 ・外部との連携による様々な学習活動を取り入れることができたか。 ・生徒が主体となった探究的な学びを充実させることができたか。	①	B	「ようこそ母校へ」や教育実習生による進路の話をはじめ、様々な外部講師による講演会を通して高校での学習の意義や卒業後の生き方について考える機会となった。 ・今年度は、「ようこそ母校へ」の講師として16名の卒業生にご協力いただいたが、講師確保に苦労した。今後の運営のあり方を検討する必要がある。	・「ようこそ母校へ」の講師については、様々な職種から話が聞けるよう同窓会と連携しながら進めていきたい。
				②	B	・10月に実施した信大生によるキャリアガイダンスでは、高校卒業後の生活をイメージし、学校生活における課題を考える機会となった。 ・外部講師による探究ガイダンスでは、地域課題について考え、課題研究につなげることができた。これらの講演を踏まえ、今後より実践的な学習を行っていきたい。	・キャリアガイダンス及び探究ガイダンスの実施については、時期を早め、実践的な学習が取り入れられるよう計画したい。
				③	B	1学年の課題研究については、今年度から信州大学学生による学習支援をスタートさせ、探究的な学びを充実させる環境を整えることができた。来年度以降、課題研究の時間を十分に確保し、フィールドワーク等の校外での学習活動を充実させたい。3年間を見通しての学習計画を立てていく必要がある。	・課題研究の実施については、年度の前半より実施するよう計画を進めたい。フィールドワークの実施は、現在の時間割編成では難しい状況にあるため、実施可能な方法について検討を進めている。
学年	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1学年	(1) (4) (5)	①基本的な生活習慣を確立し、家庭学習も含め継続的な学習を身につけるよう指導する。 ②生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定できるよう丁寧に対応する。 ③探究型学習など新たな取り組みを積極的に取り入れ導入していく。	①スケジュールを立て計画的な学習活動ができるよう手帳等を利用して指導できたか。 ②生徒の状態を丁寧に把握するため個人面談が実施できたか。 ③「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	①	B	・授業の空き時間を利用して学習をしたり、各自工夫をするようになり、向上心を持って取り組む生徒も増える反面、登校意欲が薄れて欠席数を増やす生徒も現れ、二極化が進みつつある。	・地道で継続的な指導が必要で、声かけを始めとして学習意欲の喚起を促したい。・システム手帳は計画的な学習に効果があるが、自覚を促す工夫が必要。
				②	B	・感じていることや考えていることを自由に話すことができるような心地よい居場所や関係ができつつあるが、不安を抱えて配慮が必要なケースもある。	・長期欠席者を減らすためにも早めの面談が必要で、日常の目配りを心掛けたい。
				③	B	・信州大学の学生にサポートで入ってもらい、意欲的な探究の授業が展開されている。グループ学習でそれぞれの生徒は頑張っている。ただ、グループにうまくは入れない生徒があり、その点が課題。	・主体的な学習意欲を継続させるための工夫が難しく、さまざまな仕掛けが必要。生徒の自由な探究を支援する研鑽をしていきたい。
2学年	(1) (4) (5)	①生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定した状態で学習に打ち込めるようにする。 ②入試改革に向け各自が積極かつ詳細にわたる進路選択を行えるようにする。	①各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。 ②進路に関する適切な刺激を与えアンケート等のチェックにより詳細にわたることができたか。	①	B	欠席数の多い生徒が何名もいて家庭連絡を取りながら接しているが好転せず指導の難しさを感じる。	進路への積極的な動機付けをしながら欠席の長期化を未然に防ぐように努力する。
				②	B	入試制度の据え置き等生徒の不満も、進路に向けた取り組み姿勢も一律とはならない。それぞれの分野別に丁寧な指導が必要である。	生徒の進路意識をさまざまな角度から向上するように策を練っていきたい。
3学年	(2) (4) (5)	①生徒が安心して安全に生活できるように、環境整備に努め、個々の生徒に丁寧に対応する。 ②それぞれの生徒の進路希望を把握し、生徒・保護者に進路情報を提供しながら、学年全体で進路実現に向けて支援していく。	・学習環境整備のため、清掃等の指導をしっかり行ったか。 ・生徒が安心して学校生活が送れるように、生徒の悩みや進路相談のための個人面談を実施したか。 ・生徒、保護者と情報を共有するために、学年通信を発行したか。 ・LHR、総合的学習の時間を使い、論理的に物事を考え、仲間と意見を交換し合い自分の考えをまとめていく活動ができたか。 ・進路実現に向けて学習の動機付けとなるように補習や、学習合宿を企画し実行できたか。	①	B	今年度だけでなく、3年間生徒指導事案がなかった。これは生徒一人一人の自律意識が高まったことと家庭との連携が緊密であったことが大きな要因と考えられる。貴重品の管理をたびたび注意してきたが、徹底できず、盗難被害が起きたことは残念である。	貴重品の管理について、何度も地道に注意していること。他の学校で行っていることですが、1年生の時から移動教室に貴重品を入れた貴重品BOXを持って行く習慣をつけさせる。
				②	B	例年より早くから、AO入試、公募制推薦入試対策に取り組んできた。早くから取り組んできた生徒はそれなりに成果を出せたが、担当教諭が割り振られていても、生徒自身の取り組みが遅く残念な結果になった例も見られた。生徒の自己申告書などの内容に対する面接対策を充実させていければ合格できた生徒もいたと考えられる。夏季休業中の補習から、後期補習へスムーズに移行できたことは、進路学習指導部と各教科の先生方の協力のおかげと感謝している。	探究型の学習を増やしていくことで、経験値と知識を厚くしていく必要性を感じた。外部の講師を呼んで面接を行ってもらったが、面接で自己申告文を否定されても反論できる強さを身につけていくようにする。

教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目	自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (2) (4) (5)	①論理的思考力を高めるとともに、自らの考えを的確に表現し、他者の意見を的確に捉えることのできる力を育てる。	・目標達成に資する適切な教材を設定することができたか。 ・授業に関わる情報交換をしつつ、教員同士が互いの授業を参観するなどして、授業力向上を図れたか。 ・考查に論述問題を取り入れることで、新テストも見据えた論述力養成の効果が表れた ・漢字や古文単語などの小テストを通じて、語彙力の定着を図ることができたか。 ・単元のまとめ等で、話し合いや対話を通じて各人の考えを発表することができたか。 ・「辞書作り」「助動詞かるた競技」「古典作品群読」など、生徒が能動的に授業に参加する場面を増やすことができたか。 ・作文、小論文、レポート作成等を定期的に取り入れ、各自の思考を書いてまとめる力の向上が図れたか。	①	B	・授業の中で漢文の速読や小テストなどの取り組みを行うことによって、校外模試などの場面においても成果を上げることができた。 教員同士が互いの授業を参観することはなかなかできなかったが、研究授業をきっかけに、よりよい授業のあり方について議論し、交流することができた。	・今年度の取り組みを元に、さらに生徒の自主的な学習を喚起する方策がないか、研究していく。 ・研究授業だけにとどまらず、教員同士が自由な雰囲気でお互いに授業を見学し、研鑽していけるような態勢づくりや、研究室の雰囲気作りに努める。
		②教員と生徒、また生徒同士が活発にコミュニケーションできる場を増やし、生徒自らが主体的に問題をとらえ、その解決策をわがこととして考える姿勢を作る。		②	B	・従来の授業形態だけでなく、グループごとに集まってる議論など「アクティブラーニング」の視点に基づく活動も随時行っている。小論文指導や、国語表現の授業における卒業制作などを通じて、生徒自身が問題意識を持ち、主体的に考える習慣がついてきたと感じる。今後も、プレゼンテーションやディベートなど新しい携帯を取り入れた授業方法も導入していきたい。	「アクティブラーニング」に関する研修や実践報告などの機会に積極的に参加し、さらに研究を深める。また、教科の中でもお互いの実践について交流を深め、よりよい方法を確立していく。また、ICT機器の効果的な活用方法についての研究を深める。
		③指導要領の改訂を視野に入れて、探求的活動を取り入れた授業展開について研究する。		③	B	・探究的な授業については、レポート作成を取り入れた授業や、グループでの読み、各自でテーマを設定して作文を書かせるなど、研究授業などを通じて、教員間での実践の交流を行うことができた。この取り組みをさらに発展させていきたい。	探究的な学習について、今までの積み重ねを元に、より効果的な実践方法について研究していく。また、他の教員のよい部分を積極的に取り入れることができるように、知見の蓄積方法についても研究する。
歴史 公民	(1) (3) (5)	①現代社会、政治経済など公民の授業で、主権者教育を通して広く地域や社会に目を向けさせる。	・学年と連携して、外部団体(選管)の協力を得て、主権者教育を行うことができたか。 ・定期考査などをとおして知識の定着と理解が図れたか。 ・探究的活動を、授業に取り入れることができたか。	①	B	・公民の授業内において、適切に主権者教育を行うことができた。	・外部団体と協力が必要な場合には、計画を早めに進めたい。
		②世界と日本の歴史・地理を学ぶ中で、他文化を理解し尊重していく姿勢を身につけさせる。		②	B	・歴史・地理において、教養を深めさせ、その意義を学ばせることができた。膨大な歴史用語の知識の定着には生徒が苦労する場面もあった。	・生徒が知識の暗記に終始してしまわないように、内容の精選と整理の仕方を工夫したい。
		③指導要領の改訂をにらみ、探究的活動を取り入れた授業展開について研究する。		③	B	・各科目で、探究的活動を少しずつではあるが取り入れられている。また、板書を中心とした講義形式の授業でない授業展開への研究も進んでいる。	・対話的で深い学びのある授業について、今後も研究したい。
数学	(1) (2) (5)	①計算力を中心に、教科の基礎学力の定着と、応用力の充実を目指す。	・論理的な思考の手順を、解説や板書等で的確に説明することができたか。	①	B	・週末課題を継続的に課すことによって、学習内容の定着を図った。ある程度の成果は見られるものの、まだまだ十分とは言えない。	・生徒自ら計画的に取り組める雰囲気をつくりたい。
		②論理的な思考力・判断力とともに、「言語」による表現・伝達ができる能力の育成を目指す。		②	B	・分野や学習状況に応じて、使用教材や指導方法の工夫等を試みている。 ・生徒にとって、一定の理解は示しているものの、十分に活用できているかは心配が残る。	・指導法について引き続き研究努力をしていきたい。 ・指導において、導入されたIT機器を積極的に活用する例も見られた。視覚に訴えることによって、板書だけでは困難な概念も解説が容易になった。今後、より適した教材作成の研究に期待したい。
理科	(1) (2)	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。	①自然の事物・現象についての理解を深められたかどうか。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたかどうか。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身についたかどうか。 ③自然の事物・現象に主体的に関わることであったかどうか。科学的に探究しようとする態度が身についたかどうか。	①	B	・生徒は観察、実験を通して学習への理解が深まっている。	引き続き、カリキュラムマネジメントの観点からも実験を効果的に取り入れられるように工夫していく。
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		②	B	・ICTの活用や実験などを通して、生徒が科学的に探究する力を養成することに力点を置いている。	安全指導の観点から、実験(特に1年次の化学実験)をTTで行うことができた。次年度も継続していく。
		③自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		③	B	・生徒はおおむね学習に主体的に取り組んでいる。教員側もICTを含めた教材研究を推進している。	教員間で教材を共有したり、授業を公開したりすることで情報共有を行っていく。生徒間の学び合いの時間を活用し、生徒が主体的に学ぶ態度の育成に努めていく。

教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
外国語	(1) (5)	①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。 ②生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育てる。	・生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学力定着の工夫ができたか。 ・生徒に活動させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。	① B ② B	・定期的な単語テストや小テスト、ワークブックの提出などの他に、スマートフォンやタブレットを使ったリスニング教材の紹介もして、生徒が自分のペースで主体的に学習できるようにした。 ・ペアワークやグループワークも取り入れた、プレゼンテーション、ドリル学習、ライティング練習、リーディング練習、ALTとの授業などの多様な活動を通じて4技能を育てる指導ができた。	タブレットやPCが自由に使用できる環境を整える。 取り組みが消極的な生徒に対して、声がけをしたり機会を与えたりして参加を促す。
芸術	(2) (3)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。 ②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち意欲的に取り組める教材設定ができたか。 ・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組めるための生徒支援ができたか。	① B ② B	・生徒が興味関心をもつて教材設定は、概ね達成できた。生徒個々の取り組みも良好ではあるが、「生徒個々が自ら目標を設定し」という点についてはまだ充分とはいえない。個々の興味関心を更に深め、自己表現力の向上を目指したい。 ・芸術文化を尊重する姿勢の育成は、上記の「興味関心」を更に深めることで実現できると考える。次年度以降も重点課題としたい。	・芸術文化及び作品の歴史的背景等を学ぶことから、自ら新しい文化を創造し、担っていく気持ちを芽生えさせたい。 ・作品や演奏の発表を通して、自己表現力を向上させると共に、他者理解にも繋げたい。
保健体育	(2) (3)	①知識を深め、技能・体力を向上させることで、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツにつながる資質や能力を身につける。 ②健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、明るく豊かな活力のある生活を営む態度を育てる。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させ、集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、楽しさを意識させることが出来たか、また安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	① B ② B	・個人能力の差をお互いが認め合い、時には切磋琢磨し、時には助け合いながら授業に取り組む姿勢が随所に見られた。 ・年間を通しての様々な種目を行ってきた。それぞれ種目で個人別、グループ別別に目標を定め、様々な練習の結果をフィードバックし、能力の向上を図れた。	・体力、運動能力・コミュニケーションの低下が著しい中、様々な種目をととして、心身共に発展向上できるプログラムを考え提示していきたい。 ・体育理論の内容も随所で生徒が取り組みやすい内容にリメイクした。今後も時代の流れに沿いながら常に新鮮な内容を加えながら展開していく予定である。
家庭	(2) (5)	①多様化する家族・家庭や社会の現状を知り、自らの生き方をデザインしようとする姿勢を育成する。 ②成年年齢の18歳引き下げに向け、消費生活について関心を持ち、適切な意思決定や消費行動について考え行動できる態度を養う。 ③「持続可能な社会」の実現に向けて自分の生活を振り返り、自らの課題を発見し、解決していくための考える力をつける。	・身の回りの出来事に関連するニュースに興味を持たせ、社会の現状を知り、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。 ・消費をめぐるトラブルに直面した場合、社会的な手段も利用しながら、それを解決する方法を身につけさせるための適切な指導、助言ができたか。 ・生活を巡る様々な問題に関心を持たせ、学習で得た知識・技術を活用した学習活動を充実させることができたか。	① B ② B ③ B	・「持続可能な社会」の実現について、ICTを利用し、具体的な事例を紹介しながら、グループワークを行い、現状を認識し、どう行動すべきか考えさせることができた。 ・消費者教育は年度末消費生活センターから講師を招き実施。	・実習を通し、仲間とコミュニケーションを取りながら計画的に作業を進める態度が身についてきた。 ・今後は、生活を取り巻く様々な課題の解決のため具体的な行動ができるよう、グループワークやレポート作成等探究的活動を更に取り入れていきたい。
情報	(5)	①情報モラルについての基礎基本を定着させる。 ②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。	・基礎的な知識理解ができているかどうか。 ・基礎的な技能の習得ができているかどうか。	① B ② B	基本的には全員がofficeソフトを扱えるようになり、総合の時間の研究発表の際にも積極的にパワーポイントを利用する場面が多々みられた。また、3年次の情報技術の諸君は高度なHPの作成およびゲーム作成を通してプログラミングに触れることができた。	ゲーム用のアプリとして、scratchを利用しているが、本校の情報処理室のPC上にインストールされていないため、毎時の授業時に40台のPCがWeb上からプログラミング環境を呼び込む事が必要で無駄な時間を食ってしまうことが多い。次世代以降はインストールされた形の納品となる予定である。